



10月30日（水）に、南下浦小学校の3年生において、海洋教育公開授業が行われました。内容は、「見つけた生き物を仲間分けしよう」で、授業者は藤田健太郎先生でした。

子どもたちは、自分たちが磯で見つけた海の生き物を、写真を使って、自分なりの考えで分けていきます。食べ

られるかどうかで分けた子ども、すみかで分けたこども、種類で分けた子どもなど、それぞれの考えを大事にする授業です。



次に、児童が分けたものを、実物投影機でクラスみんなに紹介して、そのように分けた理由を発表して行きました。

授業終了後、研究協議会が開かれ、授業者の自評のあと、積極的な意見交換がありました。

参加した教員からは、「地域の素材を使った授業は、地域の文化を学ぶことにつながる」「分け方が同じ子どもたちをグループにして進めた方がよかったのでは」等の意見が出ました。



東京大学海洋教育センターの進士先生からは「名前は分ける必要があるからできていく。名前は文化を反映している。海に囲まれた日本では、海の生き物が重要だったので、たいへん細かい名前がついている」という指摘がありました。国立教育

政策研究所の五島先生からは「授業の結果、何が身に付いたのかを、子どもたちに返していく事が重要である」という講評をいただきました。

今回の授業は、これからの海洋教育で進めていきたい「資質・能力」（コンピテンシーベース）で授業をとらえようという試みの初めての授業でした。藤田先生、ありがとうございました。

10月26日（土）、三浦市の青年会議所（JCI）主催で、「世界の流れを知って、三浦の未来を語る」が開催されました。SDGs（持続可能な地球を実現するために国連が定めた17の目標）を中心に考える催しで、三浦市内の中高生と若者たちが集まりました。



午前中は、ファシリテーターの先生を2名お招きして、SDGsカードゲーム（左の写真）をしながら、持続可能な開発について考えていきました。このゲームは、SDGsの目標を達成するためにはどうすればいいかを、環境、経済、社会の面から考えていくゲームです。

午後は、「SDGsを利用して、プロジェクトを考えよう」という内容で、三浦の課題について話し合ったそうです。

（文責 事務局長 渋谷）